

後援会会報

Vol. 10 第7期 2014.7

ごあいさつ

〈子供の貧困〉

子供の貧困ということが、話題となり盛んに議論されています。これがどうも分かりにくい。「親の貧困」とか「家庭の貧困」なら分かります。親や家庭が貧困なら、その家の子供は「貧困」ですよね。もっと分かりやすく言えば、「うちは貧乏だから、よそ様のようにはいかないの」と親から言われて、高望みや贅沢の抑制の心のよりどころにしてきた方々もたくさん見えると思います。いま話題の子供の貧困はどうやらこれとは別の観点から子供の貧困が語られています。もしかして、スマホが持てる子と、スマホを持ってない子と比べてどちらが「リッチ」で「貧困」なんですか、とか。…ましてや、子供6人に一人が貧困と言われると当惑します。…ほんとに難問だと思う今日この頃です。

会長 森下真治

〈田舎のその先に〉

里山学院との出会いはもう10年も前になるだろうか。鍵山先生との話の中で初めて「里山学院」の存在を知った。確か学生時代に習った児童憲章にあった「児童は人として尊ばれる」の文言が頭の中に強烈に浮かんだことを覚えている。初めて里山学院を訪れた時、子供達の元気なあいさつに驚いた。養護施設に対して自分が勝手に持っていたイメージは見事に吹き飛んでしまった。その時に私の頭の中にインプットされてから消去できない存在になりもう十年近く、私が離れられない理由はいったい何なんだろう？子供達？先生方？まっ、解らなくてもいいか。私にとって解らないことが里山の魅力かな。

村主 亮春

新しくできた乳児院からは赤ちゃんの泣き声や職員と子どもにはしゃぐ声が、ももとの養護施設の玄関先では今日も学校に通う子ども達の「行ってきます」の元気な声が早朝の園庭を歩く耳に届く。それを聞きながら、今ある施設にずっと注がれ続けてきた人々の熱い思いに行き着き思わず空を見上げた。空の向こうからは今日も又「くじけるな」「負けるな」「がんばれよ」と励ましの言葉が降ってくる。それに助けられて今も歩いている。そして明日も明後日も歩いていくことになる。

私どもが今日の施設を大過なく運営できるのもひとえに皆様方の暖かいご後援の賜物と深く感謝致します。今後も諸事多難と思えますがよろしくご支援をお願い致します。

理事長 安東 長

乳児院・なでしこ 開設しました



乳児院は平成26年4月に開設し、原則0歳～2歳までの、保護者の病気や出産・その他の事情により家庭で養育できない子どもを養育する施設です。定員は10名で、「ゆり」と「もも」の2つのユニットに分かれています。各ユニットにキッチンがあるので、子どもと一緒に食事の準備をしたり、食育をしておやつを作ることもできます。少人数で生活することで、より家庭的な雰囲気の中で過ごせるようになっています。

〈乳児院を見学して〉

乳児院の建物を見学して、一番の印象は「綺麗」でした。建物がまだ新しいことも勿論ですが、日々子どもがたくさんいて忙しく大変な中、隅々まで綺麗に掃除していることに感心しました。子供用のトイレや、手洗い場など、小さな子が自分でできるように、小さいサイズのものが備え付けられておりとても可愛らしかったです。また、どの職員さんも笑顔を決やさず働いており、とても明るい雰囲気に感じました。

岩崎 悦子

いつも温かく見守って下さってありがとうございます

私は、影重に生まれ育って69年、初代院長の角谷盛善氏が、昭和27年に里山学院を創設された時、里山保育園も併設され、その保育園の第3回目の卒園児でした。

本堂の前でオルガンで歌ったりお遊戯会をしたことや卒園記念写真も残っています。

一昨年「なのはな館」竣工式の祈り、『里山学院』が、県下で最も模範的な経営、運営をされている児童養護施設として、各地の関係者の皆様から絶賛のお話し聞き、地域に住む者の一人としても、誇れる施設だと改めて感じ入った次第です。

そして、何よりもこの施設で、惜しみ無い愛情を注がれているすべての職員の皆様方に、感謝申し上げますと共に敬意を称する次第です。

自治会・福寿会・子ども会等の活動して、今後も更に交流を深めていきましょう。

影重自治会長 山岸 芳樹

頑張っている卒業生からメッセージを頂きました

〈一番印象に残っている先生との思い出〉

夏休みに始めたアルバイト。「自分に合わないし、もう行きたくない」と担当の先生に話したら、「辞めたら？」との返事。てっきり「続けなさい」と言われると思っていたから、その言葉で気持ちが楽になり辞める事ができた。

そして高校三年生。三月には里山の退所を意味する卒業が待っている。

とにかく寮のあるところで服飾系の進路を探していた私が見つけたのは、寮に住みながら新聞配達をし、奨学生として通える大阪の専門学校。それを担当の先生に話すと「無理やろ。続かんよ。やめとき」と、一刀両断。私が見つけた進学の夢は、就職しか道が無いという事実を受け入れられなかっただけで、決して本気では無かったということ先生は分かってたんだと思う。

自分で決めた事を辞めたいと言ったら「最後までやり遂げなさい」と諭し、自分がやりたいと言う事なら一緒にあらゆる策を探して夢を後押しする。それが施設の先生というものだと思っていた。

だけど担当の先生は、いつも現実的に私と向き合ってくれてたんだと、今更ながら感じます。

神谷 京子

後援会より

学院の運営財源は、国や県からの措置費、寄付金、施設資金などで賄っていますが、子どもたちの教育活動や建物・設備品の維持管理などの向上を願って、応援していきたいと思えます。

学院近隣の方々やボランティアの方々の有志により「里山学院後援会」が平成21年3月に発足いたしました。

子ども達に対する物心両面からの支援と学院のさらなる向上を目指し、努力していただいております。

社会福祉法人 里山学院では、子ども達に物心両面での援助をしてくださる方を募集しております。

・里山学院後援会ご加入方法

会費は、年額 1口 個人2,000円 企業・団体5,000円郵便振替口座にお振込みいただきますようお願い致します。

・寄付金振込先：郵便振替口座 00890-1-206505 口座名義 里山学院後援会

・後援会お問合せ：社会福祉法人 里山学院

里山学院後援会さまより、AED2台、遊具の寄付を頂きました。



滑り台にトンネル！楽しく遊んでいます

いつも後援会の活動にご理解、ご協力頂きまことにありがとうございます。今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

里山学院 河芸

好きな食べもの	趣味	好きな言葉
味噌煮込みうどん	走ること	とにかくやる!

＜里山学院の思い出＞

私は里山学院に住み込み、子どもと起居を共にする生活で始まった。その後通勤の交替勤務をし、又小規模グループで子どもと起居を共にして現場を週いた。現場での27年間は泣いて、笑って、怒って、悩んでの毎日だった。この仕事を何度もやめてやる!と思うと、不思議と担当していた子から「私、わかる?」の電話や、「ちょっと寄った」と来院する姿に、「やっぱり続けよう」で、今に至ります。

里山学院・里山学院乳児院 施設長 鎌山雅夫

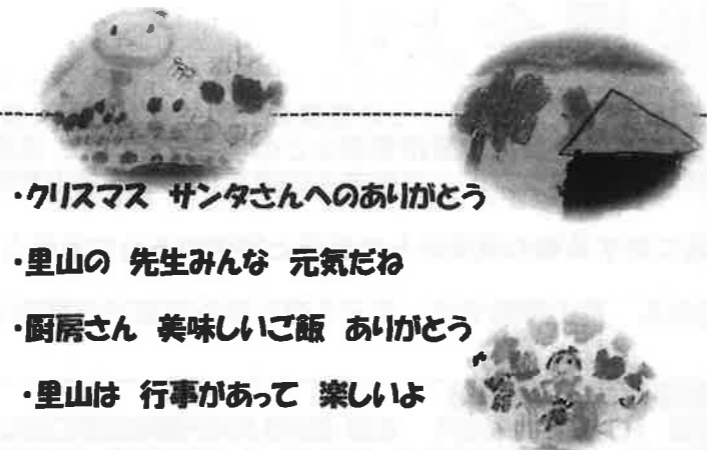
里山学院・面白エピソード

以前、夏になると招待して頂いていた「立て干し」はとても楽しかったです。魚を触れない子どもが、魚を捕まえられるようになる姿は微笑ましかったですし、いつまでも恐がっている子どもが騒いでいる姿を見るのはとても面白かったです。最近では、ハロウィンパーティーで中高生の子ども達が思い思いに施したペイントと衣装で幼児さんをびっくりさせている姿はとても楽しいものでした。

子どもと一緒に作るお菓子作りは楽しいです。ホットケーキミックスを使って簡単なお菓子と一緒に作ります。今までにホットケーキ、ドーナツ、クッキーなどを作りました。粉を混ぜる人、卵を割る人とそれぞれの手順を役割に分けて作業します。子ども達は「私、たまご!」、「僕は混ぜる!」と積極的に参加します。時には失敗することもあります。それもひとつの経験。見た目はちょっと...?という時もありますが、味はいつもおいしいです。作ったものをみんなで美味しく食べるときは私が子どもといて幸せな時間です。

里山川柳

- ・私たちがケンカするほど仲が良い
- ・里山に えがおあふれる 子どもかな
- ・里山の 祭りはいつも 楽しいな
- ・里山に 木々おもしろい 虫の声
- ・みんなはね とても笑顔で 楽しいな



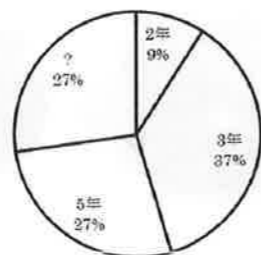
- ・クリスマス サンタさんへのあいがとう
- ・里山の 先生みんな 元気だね
- ・厨房さん 美味しいご飯 ありがとう
- ・里山は 行事があって 楽しいよ

アンケート結果 「後援会の会員の皆様についてみました!」

○後援会員になったのは何故ですか?

- ・知り合いの紹介
- ・40数年前、学院の指導員であった為
- ・後援会設置と募集を知ったから
- ・卒院生を雇用している
- ・院長が知人
- ・子ども達を応援したくて
- ・友人の勧め
- ・学院の子ども達に法律教室を開催した際講師として訪問した
- ・知人より話を聞いて

○会員になって何年ですか?



うん十年までお願いします

鈴鹿里山学院

好きな食べもの	趣味	好きな言葉
さしみ(あわび・サザエ 伊勢えび)	家庭菜園 (15年程家庭菜園をしており、300坪の畑を4人で分けて耕しています)	今日を生きる

＜子どもの頃の話＞

私は、1951年に小さな漁村で生まれた。社会福祉法(社会福祉事業法)が施行された年である。その頃の日本はまだ貧しく、電化製品があるわけでもなく、ご飯はお釜で薪を使い、洗濯はたらいに石鹸。子ども達は自然の中で、上から下まで群れて遊んでいた。近隣の交流が頻繁で、周囲には色々な大人がいたが、子ども達は自由だったような気がする。その後、高度経済成長の中で、生活様式がどんどん変わって便利になっていった。わくわくすることもあったが、少しずつ余裕が無くなっていったような気がする。

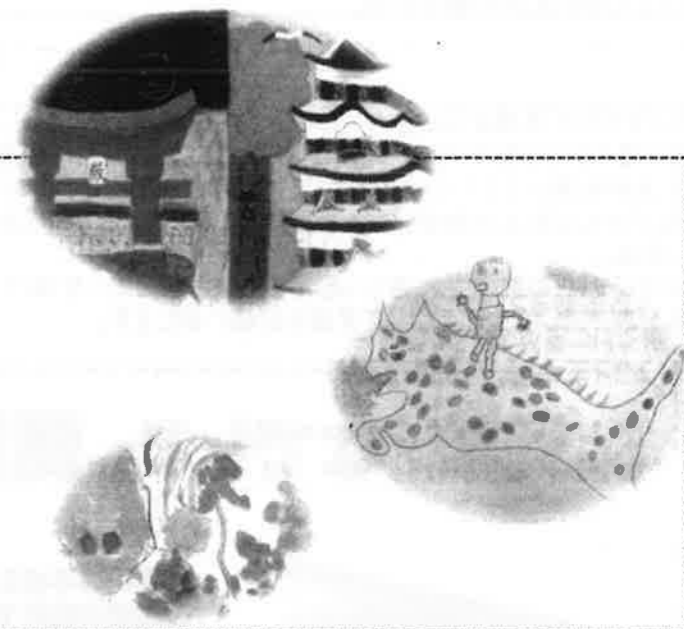
鈴鹿里山学院 施設長 榎本

鈴鹿里山・面白エピソード

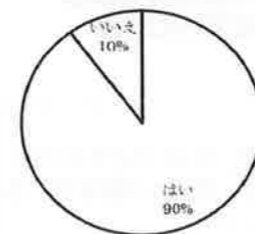
子ども達はダンゴ虫が大好き! 今日もみんなでダンゴ虫探し。ダンゴ虫を見つけたら、7リンのカップにいれて上から水をジャバ〜!! 「お風呂にはいってきれいになったね〜」 子どもって……無邪気で可愛いですね

鈴鹿里山川柳

- ・ドラえもん ああドラえもん ドラえもん
- ・里山の 先生個性にあふれてる
- ・朝ごはん おかずはもっと 増えないの
- ・ねえ先生 僕はのび太じゃ ないですよ
- ・靴箱が 2つになって うれしいな
- ・フキトマト キキョウのみんなで 育ててる

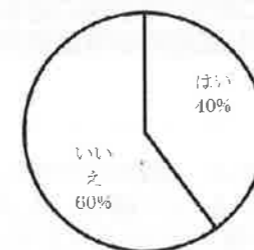


○学院にきたことがありますか?



100パーセントを目指します!

○学院の行事に参加したことはありますか?



もっと呼びかけて来てもらいます

○会費の使い道について希望はありますか?

- ・会員拡大の為の費用を拡充

○その他

- ・読み聞かせや手遊びのボランティアをしたい
- ・子ども達との交流をしたい
- ・行事の開催日がわからない
- ・自動車の寄付は良かったですね